HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	断酒会にたどりついたあなたへ (5)
Author(s)	眞崎, 睦子
Citation	かがり火, 165, 15-15
Issue Date	2011-09-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62156
Type	article
File Information	kagaribi-5.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「断酒会はだれのもの？」―前号からの続きです。

ある若い女性の話を。義弟に目立つようになった問題行動が酒によるものだと気付いたのは、久しぶりの外食の席でした。カニの身をかき出す手指が不自然に震えていたのです。義弟が暮らす地域の病院にアルコール病棟があることを知り、嫌がる家族を説得、院内家族会に連れて行くまでに1年を要しました。家族を安心させた魔法の言葉、それは「言いっ放し・聞きっ放し」でした。

ある日、特によくしてくださったという看護師の方から彼女に連絡がありました。「義姉が主導したという珍しいケースなので、来月、うちの病院のグループで研究発表をする」―彼女は愕然としました。「聞きっ放し」ではなかったのか、事前に何も聞かされていない。浮かんだ疑問を率直に伝えたところ、「研究発表をやめる」という短い返事。最後まで反省やおわびの言葉はなかったそうです。残念なのは、やっと見つかった回復への一つの扉が、本来回復を手助けする側の、意識の低い行為により、閉ざされてしまったことです。さらに、この病院へ家族をつないだ彼女は、家族からの信頼をも失うことになったのです。

研究発表がいけない、というのではありません。しかし、「研究の倫理」のもと、関わった人間の情報を研究発表の材料にする場合は、それがどのように用いられ、どのような範囲で公開され得るか等、事前に説明をすることが求められます。学会等、研究発表の場で、「調査対象のアルコール依存症の人々やご家族は、事前に説明を受けていただろうか」と疑問を感じたことがあります。個人情報に敏感な人々が、「アルコール依存症である人々やご家族の情報」には敏感ではない―ここにもアルコール依存症への偏見が潜んでいる、と思うのは私だけでしょうか。

ある時、学生の一人から「（あるテーマに即して）断酒会員を対象に調査をしたい。見学したいのでどこかいい例会を紹介してほしい」という連絡がありました。私の本棚にあるどんなに貴重で高価な文献でも貸すことができる、しかし、断酒会は、私の所有物ではなく、意思を持った人間の集団です。私は、「一般に公開されている断酒会の連絡先をお教えすることはできるが、仲介をする立場にはない」と回答しました。真意が伝わったかどうか、自信はありません。その学生は、断酒会から紹介されたある例会を訪れ、歓迎されたということ。それはそれで意味があったとも思いますが、私の中ではまだ何かが燻っているのです。

すべての出席者が等しい立場で体験談を語る例会という場と、数名が外に向けて体験談を語る公開のイベントがあります。目的によっては見学者を迎えるのは、まずは、外に向けたイベントからでいいのではないか、例会の場合はせめて「次回は調査目的の見学者が来る」などの情報を事前に参加者に伝える方法はないものか、などの思いとともに。

あなたは、「例会はいつ誰が見学に来てもいいんだよ」と首をかしげているかもしれません。そう明記してある資料もあります。「状況に応じて体験談の内容を加減するから問題ない」ということも伺いました。しかし、個人的な意見として誤解を恐れずに言えば、たとえお一人でも、「調査目的等で見学されること」に抵抗を感じる人がいらっしゃれば、そのお気持ちも尊重してほしい、断酒会への信頼を固めきれていない人は「見学されるのが嫌だ」と言えないかもしれない、と思うのです。見学に来られる方に、「言いっ放し・聞きっ放し」のポリシーが行き届いているでしょうか。

例会の場が、公民館であっても、教会やお寺であっても、そして病院であっても、体験談は、それを語る人間のものであり、「言いっ放し・聞きっ放し」という約束の例外的な解釈を許すのは、その体験談を語る人間のほかにいるはずがありません。

「内向きではダメだ、開かれた断酒会へ」と耳にするたび、そういう方々の誕生を頼もしく思います。同時に、まだそのような心の準備ができていない人々の居場所を確保してこそ、真の社会貢献です。「断酒会は誰のもの？」「体験談は誰のもの？」という問いとともに、酒害を克服し外の社会へと向かう決意、酒害に疲れ果て救いと平安を求める心、その両方の拠り所が断酒会であることを思わずにはいられません。

ではまた『かがり火』のこのページでお目にかかります、と書かせていただくのも今回が最後、次回は最終回です。

断酒エッセイ

断酒会にたどりついたあなたへ（5）

北海道大学大学院　眞﨑　睦子